



## 森ボラ通信

第17号 2003年 10月20日発行

北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区北1条東1丁目明治生命ビル

Tel 241-8155 Fax241-8308

E-mail : shinrin-b@pc.aaapc.co.jp

### お報せ

本号から、記事の配列を逆転しました。時系列に新しい記事を前にすることにします。

### 10月18日 澄川 雨天中止

一旦は真駒内駅に集合はしましたが、雨脚強く作業は無理と判断し、中止、解散しました。

### 森林総研「枝打ち」作業

10月17日（金）参加23名。森林総研5林班に小班の「枝打ち」作業は前回の3日に加え4回の作業であらかた終わりました。やり残しが少しある程度です。5.77畝の面積を延べ71名で、一番下の枝がついている状態のアカエゾマツのねばっこい枝を相手にしての結果ですから、素晴らしい実績だと思います。ご苦労様でした。

### 10月定例幹事会

10月14日（火）、定例幹事会では以下のことを検討および決定しました。

#### 1. 冬期活動について

●学集会は12月から4月まで月1回のペースで開催します。講師は会員の希望者。テーマは自由。1回あたり講師2名を想定します。4月までで5回、講師10人となります。講師ご希望の方はテーマともども事務局に申し込んでください。

#### ●間伐材等による物づくり

樹木名札、かんじき等の製作。森の看板は材料の乾燥不全のため、延期。

#### ●実業現場見学会

製紙工場、製材工場等を検討する

## 2. 西野第二の整備

境界の確認。

ニセアカシヤは毎木調査をおこなう。

## 3. 忘年会は行う方向で企画する。

出席幹事:加治豊実、鎌田俊美、後藤祐司、酒井和彦、松村清松、三浦裕、村上昭子

### 樹上の小さな隠れ家づくり



10月13日（月祭）、当別「フクロウの森」で、山主の石島さんの特別企画「樹上の小さな隠れ家づくり」に湊、酒井、柴田の3名が参加。“お手伝い”のつもりが、すっかり惹き込まれ、わくわくし通しの一日となりました。

参加したのは、石島さんの夢に賛同した、往年の少年達数名。事前に用意された組み立て式の家を、大きなシラカバの萌芽株を利用して、地上2mの位置に設置するもの。時折の雨も、夢見る少年達には焼け石に水。午前10時に作業を開始し、午後3時過ぎ、見上げる樹上に、三角屋根のシンプルで美しい小屋が出現しました。おしゃれな小窓もついています。大人二人は眠れるスペースです。お揃いのシラカバの梯子とブランコも詠えました。見上げる少年達の頬は、美しく紅潮していました。夢を形にするということ、夢は形にできるということを体感できた貴重な経験となりました。（柴田久子）

### 森林総研枝打ち作業進行

10月6日（月）、7（火）、8（水）、と3日連続20人、15人、13人延べ48人が参加して森林総研の新しい作業、「枝打ち」をやりました。5林班に小班（5.77ha）25年生の針葉樹人工林でアカエゾマツ、トドマツの枯れ枝のみを落とす作業でした。針葉樹の比率が全体で87%、30×30haに区画が45区画。内12区画が広葉樹主体でこれは除外。アカエゾマツの枯れ枝は堅く、折れにくく、ヤニが鋸にはりついて滑りが悪くなり、結構ハードな作業でしたが、33区画の内、70%程度を片付けました。キノコの種類数知れず、食べられるヤギタケをどっさり収穫し、お土産になりました。残りはあと2回程度の作業で完了すると思われます。

10月5日（日）、参加12名。支笏湖の東南10<sup>km</sup>あたりにある口無沼を舞台にアカエゾマツ人工林の枝打ち作業をやりました。2000本を4～500人でかかるわけですから、一人が5本ていどで終わり。仕事が簡単すぎて、セミプロレベルになっている当会会員には物足りない。子供向けに設計された行事のようでした。紅葉のはしり、支笏湖周辺の森の景色は幾度見ても飽きることのない素晴らしいものでした。

#### 札幌工科専門学校、林業演習指導

10月2日（木）、当別「フクロウの森」にて、札幌工科専門学校の林業演習が行われました。昨年の有明第二、今年の春の「フクロウの森」での植樹関連の演習をやりましたので、学生達と顔見知りとなりました。湊代表幹事の指導する学生達なので、酒井代表幹事および高野の2人でサポートしてきました。

#### 札幌市植樹祭

9月28日（日）、参加5名。宮の沢地下鉄ターミナルから送迎バスで10分程度で手稲山麓富丘の現場に到着。苗木は800本、100人強の参加者なので1人が5本程度を受け持つだけなので、短時間で終わりました。植え穴に客土までしてあるので、仕事は簡単。セレモニーを含めて1時間ほどで終わりました。帰路の地下鉄に乗る時点で正午頃。大人の仕事としては、植え穴掘の作業を含めてもよいのでは、と思いました。

#### 森林総研の新規作業決まる

9月19日、佐々木実験林室長から、新規の作業区域と内容が示されました。4<sup>号</sup>をご覧ください。4林班へ小班（間伐作業、面積1.62<sup>ha</sup>）と5林班に小班（枝打ち作業、面積5.77<sup>ha</sup>）です。

#### ニセコ炭焼き研修の報告

9月18日（木）炭焼き研修の第一班（9名）がニセコに集合。後志森づくりセンターから借用した小型炭焼き窯での炭づくりに初めて挑戦しました。結果は失敗。生焼けが下段の方に残りました。木酢液の採集量も少ない、とのことでした。24日出発の第二班（12名）は、第一班の設営のお陰で行程が1泊2日に短縮されました。そして前班の失敗を教訓として、装填、着火、無蓋状態での燃焼、蓋閉めのタイミング、吸気・排気の調整が順調にゆき、排煙の観察による煙突の付け替え、密閉のタイミング等が適正であったようで、結果は成功でした。

酒井代表幹事には、関係者達との交渉・調整等ご苦労様でした。お陰様で森づくりセンターを始め、倶知安

町「百年の森」のご協力をいただきました。森の副産物「キノコ」に出会い、夕食の鍋が賑わいました。ヒメコウモリの話と、保護活動など珍しい知識も頂戴したりで、予期せぬ収穫のあった研修でした。

第二班では、夜は焚き火を囲んでの野外パーティの様相となりました。煙突の番をしながらのお酒がおいしく、話題が盛り上がりまして、よい思い出となりました。

場所の使用を快諾していただきました渡部さん、土運びを始め、なにかとお世話になりましたエーデルヴァイスの谷崎さんにも感謝申し上げます。